

様式第3号（第13条関係）

会議録

会議の名称	第7回朝霞市総合計画策定委員会
開催日時	令和6年7月8日（月） 午前10時42分から 午前11時 6分まで
開催場所	朝霞市役所 別館3階 市長公室
出席者及び 欠席者の 職・氏名	【出席者】 稲葉市長公室長、千葉危機管理監、須田総務部長、紺清市民環境部長、佐藤福祉部長、堤田こども・健康部長、松岡都市建設部長、村沢審議監兼まちづくり推進課長、田中会計管理者、益田上下水道部長、太田議会事務局長、小島学校教育部長、奥山生涯学習部長、神頭監査委員事務局長 （事務局） 櫻井市長公室次長兼政策企画課長、齋藤同課主幹兼課長補佐、石崎同課政策企画係長、山本同課同係主任 【欠席者】 なし
議題	1 第5回朝霞市総合計画審議会を実施したグループワークの結果について（報告） 2 第6次総合計画策定の流れについて 3 転入・転出意識調査の結果について（報告） 4 将来人口推計について 5 基礎調査報告（案）について 6 第5次後期基本計画総括結果の概要 （成果と新たな計画に向けた課題の想定） 7 その他

会議資料	【資料 1】 第 5 回朝霞市総合計画審議会 ワークショップ意見の整理 【資料 2-1】 第 6 次総合計画策定の流れ 【資料 2-2】 第 6 次朝霞市総合計画策定スケジュール 【資料 3】 朝霞市転入・転出意識調査 結果報告書 【資料 4】 第 6 次朝霞市総合計画策定に向けた人口推計（案） （推計シミュレーション） 【資料 4 参考】 地区別人口の推移 【資料 5】 第 6 次朝霞市総合計画策定に向けた基礎調査報告（案） 【資料 6-1】 第 5 次朝霞市総合計画後期基本計画 総括評価結果 【資料 6-2】 第 5 次朝霞市総合計画後期基本計画 総括評価シート 【資料 6-2 参考】 第 5 次朝霞市総合計画後期基本計画 総括評価シートの見方	
会議録の 作成方針	☐ 電磁的記録から文書に書き起こした全文記録	
	☐ 電磁的記録から文書に書き起こした要点記録	
	☒ 要点記録	
	☐ 電磁的記録での保管（保存年限 年）	
	電磁的記録から文書に書き起こした場合の 当該電磁的記録の保存期間	☐ 会議録の確認後消去 ☐ 会議録の確認後 か月
	会議録の確認方法 出席者の確認及び事務局の決裁	
傍聴者の数	—	
その他の 必要事項	なし	

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

【開会】

【議題】

1 第5回朝霞市総合計画審議会で実施したグループワークの結果について（報告）

【説明】

（事務局：石崎政策企画課政策企画係長）

第5回総合計画審議会で実施したグループワークの結果について、資料1を用いて報告する。

第5回総合計画審議会においては、基本構想・基本計画の審議に当たり、朝霞市の魅力や課題等を再認識し、意見共有を図るため、会長を除く審議会委員15名が三つのテーブルに分かれてグループワークを行い、「朝霞市の強み・弱み」と「朝霞市が目指すべき方向性のキーワード」について、様々な意見を出し合い、最後に発表を行った。

具体的な意見として、朝霞市の強み・弱みとしては、「自然が豊かである」や、「彩夏祭等、市民に誇れるものがある」という点が強みであるといった意見が出たほか、「市民の市への愛着が薄い」、「高齢化への見通しが不明瞭」という点が弱みであるといった意見が出された。

朝霞市が目指すべき方向性のキーワードとしては、「誰もが知っているいいまち、あさか」、「何歳になっても暮らしたいまち」、「世代を超える魅力あるまち」といった意見が出された。

なお、資料1の5ページ以降には、各グループでまとめられたテーマごとの模造紙のイメージを添付している。

ワークショップでの意見については、基本構想や基本計画への参考としていきたいと考えている。

報告は以上である。

【質疑等】

なし

【結果】

原案のとおり、次回審議会の議題とする。

【議題】

2 第6次総合計画策定の流れについて

【説明】

（事務局：石崎政策企画課政策企画係長）

第6次総合計画策定の流れについて説明する。

まず、資料2-1は、4月30日の総合計画策定委員会で承認をもらった第6次総合

計画策定の流れを図示したものである。

基本構想の策定の進め方については、左上の囲み「①朝霞市の将来像を描き、その実現に向けて、どのような方向性でまちづくりを進め、どのような取組を展開すべきか」という視点と、左下の囲み「②後期基本計画の課題を整理し、課題の解決に向けてどのような方向性でまちづくりを進め、どのような取組を展開すべきか」という二つの視点を両輪として、基本構想及び基本計画の策定を並行して進めている。

この策定の流れに基づき、本日の策定委員会では、議題6として後期基本計画総括結果を示し、新たな計画に向けた課題について意見をもらいたいと考えている。

次に、資料2-2は、来年度の9月議会に基本構想を上程するまでのスケジュールとなっている。

基本構想を9月議会に上程する理由としては、第6次総合計画の開始年度となる令和8年度の当初予算の計上に当たり、実施計画を作成するスケジュールも鑑みると、12月議会において基本構想の承認を受けた場合では予算編成に間に合わないことから、9月議会に上程するスケジュールとしている。

今年度においては、令和7年2月までに基本構想素案及び基本計画素案をまとめ、3月中にパブリック・コメントを実施する。

なお、現在、パブリック・コメントは「市民コメント」と名称を変更しているため、本資料を総合計画審議会に示す際は表記を修正するが、この会議では、パブリック・コメントを市民コメントと読み替えて説明する。

具体的な進め方だが、スケジュールの中央より少し上、赤く丸で囲まれた⑦が本日の策定委員会となっており、本日の策定委員会を受け、7月17日に第6回総合計画審議会を開催し、後期基本計画総括結果を示し、新たな計画に向けた課題の想定について意見を聴く。

また、スケジュール表には記載がないが、7月24日の外部評価委員会において、後期基本計画の総括について評価をもらい、評価結果については、8月の策定委員会及び審議会に示した上で、総合計画全体の課題及び資料2-1の二つの軸から検討した基本構想の骨子について意見を聴く。

次に、10月には、外部評価委員会の意見や8月の審議会で出された後期基本計画の課題、社会情勢の変化などを踏まえた基本構想の骨子を基に検討した基本計画骨子案として施策体系を示し、意見を聴く。

なお、10月の第8回審議会の議題として「基本構想骨子案②」とあるが、8月の第7回審議会において資料2-1に示す二つの視点を踏まえて審議することから、基本構想骨子案は8月中に決定したいと考えている。

次に、10月下旬から11月までは、基本構想や基本計画の素案を示し、基本計画素案は、第5次後期基本計画策定時と同様、分野別・章別に、回数を分けて意見を聴く。

2月には、市民コメントに向けて基本構想素案及び基本計画素案を確定し、3月に市民コメントを実施する。

その後、市民コメントの意見を踏まえ、4月下旬から5月までに基本構想案及び基本計画案の市民コメント後修正案を示し、総合計画審議会から答申をもらい、9月議会に基本構想を上程する予定としている。

なお、基本構想素案や基本計画素案が固まった段階で、議会への報告を行いたいと考えている。

また、基本構想骨子案や基本計画素案が固まった段階では、市民意見交換会や分野別市民懇談会を開催し、市民参画を進めるほか、都市計画マスタープランとの連携を図りながら策定を進めていく。

説明は以上である。

【質疑等】

なし

【結果】

原案のとおり、次回審議会の議題とする。

【議題】

3 転入・転出意識調査の結果について（報告）

【説明】

（事務局：山本政策企画課政策企画係主任）

転入・転出意識調査結果について報告する。

転入・転出意識調査は、今年の2月、第4回策定委員会において一度報告をしたが、その際、有効回収数が10件程度と非常に少ないことから、追加で調査を行い、回収数を補填できないかなどの意見があった。

その後、課内で検討の上で追加調査を行い、以前に示した報告書に追加調査の結果を加えて取りまとめたものが資料3「朝霞市転入・転出意識調査結果報告書」である。

1ページでは、調査概要を記載している。

この調査は、当初、転入者及び転出者を対象として、総合窓口課の窓口で転出入の手続きを行う者に調査票を配布し、郵送又はインターネットでの回答とした。

調査期間は令和5年12月15日から令和6年1月15日まで、有効回収数は転入者17票、転出者9票であった。

そして、追加調査として、令和6年4月10日から26日まで、市長公室の職員が総合窓口課の窓口付近に待機し、転出入の手続きを行う者に、直接、聞き取りによる調査を行った。

その結果、転入者109票、転出者68票の回収ができ、当初の調査と合わせて、転入者126票、転出者77票の回収数となった。

主な調査結果だが、まず、転入者意識調査について、9ページ、朝霞市への転入のきっかけは、「自分や家族の就職・転勤・転職」という回答が最も多くなっており、次の10ページ、朝霞市を居住地に決めた理由では、「通勤・通学に便利」が最も多く、次いで「交通の利便性がよい」という回答結果になった。

転出者意識調査については、19ページ、朝霞市から転出するきっかけは、転入者同様に「自分や家族の就職・転勤・転職」という回答が最も多い結果となっており、次の20ページ、転出する理由については、「通勤・通学に不便であるから」が最も多くなっているが、その一方で、「特に理由はない」という回答も多く見られた。

説明は以上である。

【質疑等】

なし

【結果】

原案のとおり、次回審議会の議題とする。

【議題】

4 将来人口推計について

【説明】

（事務局：石崎政策企画課政策企画係長）

将来人口推計について、資料4を用いて説明する。

人口推計は、これまでの会議でも説明しているため、変更点について説明する。

34ページだが、人口推計については、これまで「出生率は現状を維持していくパターン。移動は転出入が緩やかに均衡へ向かうパターン」として「出生中位、移動中位」を事務局案としていたが、審議会においては、「東京都の人口が減っていく中、人口は厳しめに見ておく必要があるのではないか。」という意見があった。

その後、出生については、6月5日に厚生労働省の発表があり、令和5年の合計特殊出生率は国が1.20、東京都が0.99、埼玉県が1.14で、いずれも前年から低下している。

合計特殊出生率の傾向は、国の施策や社会経済状況に左右される要素も大きいと思われること、また、直近においても合計特殊出生率の低下傾向が続くことから、本市における将来人口推計パターンを再度検討した結果、出生について、平成30年から令和4年までにおける平均値である1.35から、令和12年に1.30、令和22年に1.20、令和52年には1.00となる「出生低位」に変更し、「出生低位、移動中位」としたいと考えているが、改めて意見をもらいたい。

なお、次回の審議会に資料として示した上で資料を確定し、全庁に共有したいと考えている。

また、審議会において「全市・長期というマクロ的な視点だけではなく、各地域・短期といったミクロ的な視点が必要ではないか。」という意見があったことから、資料4（参考）として、地区別人口の推移を用意している。

直近5年間の地区別人口の推移をまとめたところ、幸町や根岸台などにおいては人口が増加傾向かつ高齢化率が下降傾向に、内間木や栄町では人口が減少傾向かつ高齢化率が上昇傾向という結果になっている。

説明は以上である。

【質疑等】

（須田総務部長）

人口推計の方法というところではないが、先ほどの報告も含め、いろいろな基礎資料を作っていると思う。

それらをどうやって計画に生かしていくかというのは、こういう結果を見て、それぞれの部会ごとに判断していくという考え方でよいのか。

（事務局：櫻井市長公室次長兼政策企画課長）

そのような考え方でよいと考えている。

また、総合計画のほか、個別計画を検討するときにも、人口推計等を活用してもらうことを考えている。

（須田総務部長）

議会において、もっと人口を増やす政策をとるべきなのか、それとも増やさないよう

にする政策をとるべきなのかという質問があったと思うが、こういう調査を行い、現状を踏まえた結果、市全体としてどういう方向に行こうかということを考える必要があるのではないかと思う。

例えば、部会によって、人口を増やすためにもっといろいろなことを活性化させるという判断をするか、人口はこれぐらいでとどめておくという判断をするかなど、ばらつきが出ると困ると思うので、市全体としてこういう基礎資料を基に、どういう方向で政策を立てるのかということを検討した方がよいのではないかな。

(事務局：櫻井市長公室次長兼政策企画課長)

市としてどのような方向に進みたいのか、というのが一番大事な部分と思う。

事務局としても考え方の整理をして、前期基本計画の検討着手くらいまでには人口推計等を踏まえ、方向性を示していきたいと考えている。

(須田総務部長)

このことは、この計画のターニングポイントというか、重要な視点ではないかと思うので、いろいろ議論できる場があるとよいと思う。

(稲葉市長公室長)

第5次総合計画では、今の人口バランスを保つ、というような表現が用いられている。

(須田総務部長)

人口バランスとは、具体的にどのようなことか。

(稲葉市長公室長)

単に人口を増やすことだけを目指すのではなく、高齢層、若年層などのバランスが急激に変わらないように、世代のバランスを維持できるようにという意味である。

【結果】

原案のとおり、次回審議会の議題とする。

【議題】

5 基礎調査報告（案）について

【説明】

(事務局：石崎政策企画課政策企画係長)

基礎調査報告（案）について、資料5を用いて説明する。

まず、基礎調査報告書については、以前の総合計画審議会において、第5次総合計画に掲載されている財政推計に関する資料や、各施設位置図などの参考図表を加えることについて意見があったため、資料の作成を進めていた。

今回、関係各課の協力により資料がまとまったため、改めて基礎資料として報告をするものである。

以前、示した資料からの変更点だが、31ページ以降に、財政推計資料として歳入・歳出の推移を追加した。

歳入・歳出の推移として、共に新型コロナウイルス感染症対策の影響によって一時的

に増加した令和２年度を除き、年々増加傾向になっており、また、次の３２ページ、歳入の推移として、令和２年度からは国・県支出金が増加しているが、市税の増加は緩やかになっている。

３３ページ下のグラフだが、歳出の推移として、義務的経費のうち、人件費及び公債費の伸びは限定的であるが、扶助費については平成２５年度の２倍近い水準へと増加している。

４９ページ以降には、参考図表として各公共施設の位置図を追加している。

これは、第５次朝霞市総合計画の冊子に掲載している図表を基に、新しくできた施設等を反映したものとなっている。

基礎資料については、次回の審議会に資料として示した上で確定し、全庁に共有したいと考えている。

説明は以上である。

【質疑等】

なし

【結果】

原案のとおり、次回審議会の議題とする。

【議題】

６ 第５次後期基本計画総括結果の概要

【説明】

（事務局：山本政策企画課政策企画係主任）

第５次後期基本計画総括結果の概要について説明する。

議題（２）においても説明したが、「後期基本計画の課題を整理し、課題の解決に向けてどのような取組を展開するか」という視点から、次回の審議会において、総括評価の結果を基に、第６次総合計画につながる課題を抽出してもらうことを考えている。

そこでの議論のため、大柱・中柱の評価をまとめた資料６－１、各評価シートを綴った資料６－２、そして、参考としてシートの見方を配付することを考えている。

総括評価の結果について、資料６－１を基に概要を説明する。

１ページでは、総括評価における大柱、中柱の達成状況の集計をしている。

合計３０ある大柱については、全て「Ｂ おおむね順調」という評価、中柱においても、７９ある施策の９６．２％が「Ｂ おおむね順調」という評価となっているが、３施策は「Ｃ やや遅れている」という評価になった。

評価が「Ｃ」となった、第２章健康・福祉、第３章教育・文化、第４章環境・コミュニティの三つの施策について、２ページに簡単にまとめている。

まず、「地域共生社会の構築」は、新型コロナウイルス感染症の影響が残り、地域での「つながる」活動ができなかったことなどから、やや遅れているという評価であった。

次の「芸術文化の振興」でも、新型コロナウイルス感染症の影響が残り、成果指標の目標を達成していないため、この評価となっている。

最後に、「低炭素・循環型社会の推進」では、社会情勢として、温室効果ガス排出量削減が求められていたことから、指標の目標値を上向き修正した影響により、進捗が遅れているという評価となっている。

なお、審議会においては、資料６－２（参考）、総括評価シートの見方の右下、吹き出しで記載しているとおり、総括評価シートの「今後の課題」を中心に、第６次総合計画につながる課題について、意見を聴きたいと考えている。

説明は以上である。

【質疑等】

なし

【結果】

原案のとおり、次回審議会の議題とする。

【議題】

７ その他

【説明】

（事務局：櫻井市長公室次長兼政策企画課長）

今後の流れだが、将来人口推計については、７月１７日に開催される総合計画審議会において、市としての考えを説明し、方向性を決定する。

また、基礎調査報告書については、総合計画審議会において報告し、その後、全庁に共有する。

次に、後期基本計画の総括結果の概要については、総合計画審議会において後期基本計画の総括結果を踏まえた今後の課題について意見を聴き、基本計画策定の参考とする。

次に、次回の策定委員会については、８月６日（火）、内部統制に係る庁内対策委員会終了後の開催を予定しており、７月３日にも開催の通知をしたが、議題等が決まり次第、改めて通知する。

最後に、第６次総合計画の策定に係る「市民団体、事業者等との意見交換」について、３月１８日付けで、７月頃までに「市民団体、事業者等との意見交換」を実施し、報告するようお願いしているが、期日も近づいていることから、策定部会員宛てにリマインドをするので、改めてよろしくお願いしたい。

【質疑等】

なし

【閉会】